

令和5年度（2023年度）行政評価シート【個表】 令和 5 年 6 月 23 日

評価対象事業		評価者	生活福祉課	寺山 明
健福-14	ひきこもり対策推進事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	生活福祉課
重点事業		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	青少年課、地域共生課、教育センター、商工課、障害福祉課、高齢者いきいき課、市民健康課
総合計画上の位置付け	分野	健康福祉	施策の方針	多様性のある福祉サービスの充実

1 事業の目的

対象	ひきこもりの状態にある方やその家族
意図	社会参加や自立の促進を図るため。
効果	ひきこもりの状態にある方やその家族の不安が解消され、社会参加や自立が促進される。

2 令和4年度(2022年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひきこもり支援員を配置し、ひきこもりの状態にある方やその家族に対し相談支援を行った。</li> <li>・ひきこもり支援指導員を配置し、支援方針等に関するスーパーバイズを受けながら支援を行った。</li> <li>・ひきこもりに関する講演会等を開催した。</li> <li>・ひきこもりの状態にある方やその家族に対する居場所の提供を行った。</li> <li>・ひきこもりに関する実態調査を行った。</li> </ul>
--

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和4年度		令和5年度	達成度	
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)		
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)		
01	ひきこもり家庭等相談支援事業	—	相談支援件数(人)	60 / 50	0 / 0	66		
02	ひきこもり周知啓発等事業	講演会講師謝礼等	講演会への市民等の参加人数(人)	19 / 50	510 / 620	50		
03	出張旅費	支援員旅費	—	— / —	52 / 46	—		
04	一般事務経費	消耗品、印刷製本費、役務費	—	— / —	9 / 0	—		
05	居場所事業	賃借料	居場所利用のべ人数(人)	13 / —	187 / 0	48		
06				/				
07				/				
08				/				
09				/				
10				/				
		財源内訳	国県支出金	434 / 333		1,230		
			地方債	/				
			その他特定財源	/				
			一般財源	324 / 333		1,231		
			事業費の合計(千円)		758 / 666		2,461	
		人件費(千円)			7,377	15,848		

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	0.1	0.4	0.8	1.7		
会計年度任用職員	0.0	1.0	1.0	2.0		

## 5 評価結果

### (1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、 目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、 構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	ひきこもり家庭等相談 支援事業	ひきこもり支援員及びひきこもり 支援指導員を配置したことにより、 当事者及び家族からの相談を受け、 支援につなげることができたことで、 事業の目的である自立の促進に寄与したと 考えている。	ひきこもり家庭を支援することで 社会や地域とのつながりができ「市民が 安心して自分らしく暮らすまち」に寄与 した。	障害・高齢・子ども等の各分野 の所管課と連携し、年代や特性 に応じた支援を行うとともに、ア ウトリーチを含めた相談支援体 制の構築のため、事業の整理 や具体的な支援方法の更なる 検討が必要である。
02	ひきこもり周知啓発等 事業	目標値には届かなかったが、 庁内の関係課等の支援者を中 心として、具体的な事例検討を 通じて理解を深め、支援機関同 士の連携に向けた関係づくりに 資する内容となったと考えている。	ひきこもり家庭を支援する 職員・事業者等がひきこもり 支援について理解を深める ことで、社会や地域による 支援につながることとなり 「市民が安心して自分らしく 暮らすまち」に寄与した。	ひきこもり支援ガイドや市ホーム ページ、SNSなどの活用により、 事業の周知を図る必要がある。
03	出張旅費	相談員の出張に係る軽費のため、 成果指標の設定にはなじまない。	—	—
04	一般事務経費	消耗品等の事務経費のため、 成果指標の設定にはなじまない。	—	—
05	居場所事業	ひきこもりの方や家族を対象と した居場所を設置することで、 社会的つながりのきっかけとな ることが見込めることから、利 用回数の増を目指して取り組 んでいく。	ひきこもり家庭を支援するこ とで社会や地域とのつなが りができ「市民が安心して自 分らしく暮らすまち」に寄与 した。	現在、利用者を相談支援につな がっている方を対象としている が、今後の利用対象者の広げ 方や周知方法について検討す る必要がある。
06	0			
07	0			
08	0			
09	0			
10	0			

**(2) 視点別評価**

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	2 外部化に向けて検討できる事業がある
	関連・類似する事業の統合はできないか	2 統合に向けて検討できる事業がある
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	2 民間によるサービスで代替できる事業はあるが、民間による提供が不足している
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入
		△-2 受益者はいいが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施
		△-1 今後、市民等との協働による事業を検討すべき事業がある 協働実施済の場合のパートナー

**(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する**

【今後の方針】  拡充  改善・変更  現状維持  縮小  休止・廃止

令和3年度より配置した「ひきこもり支援員」に加え、令和4年度からは「ひきこもり支援指導員」に専門的知見からスーパーバイズを受けながら相談支援体制の強化を図るとともに、ひきこもりの居場所を設置することで、事業の拡大を行った。また、令和5年1月に行った実態調査の結果も踏まえ、令和5年度以降は、ひきこもりの課題を抱える世帯に対し包括的に対応するため、相談支援機能や居場所機能等を有する一体的な支援の拠点として「鎌倉市ひきこもり地域支援センター」を設置し、事業の更なる拡充を図っていく。

**【参考】**

**◎事業実施に係る主な指標**

指標(単位)	ひきこもり相談件数						単位	人
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
ひきこもり問題を抱える当事者及び家族が相談支援につなげることが本事業の目的であるため	目標値		20.0	50.0	66.0			
	実績値	13	44.0	60.0				
	達成率		220.0%	120.0%				

指標(単位)	ひきこもり居場所利用のべ人数						単位	人
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
ひきこもりの方の居場所づくりを通じて社会的つながりのきっかけづくりにつなげることが本事業の目的であるため(令和4年11月～ 新規開始)	目標値			20.0	48.0			
	実績値			13.0				
	達成率			65.0%				

**◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)**

比較事項	ひきこもり相談件数等(令和4年度実績)						
団体名	鎌倉市	大和市	座間市				
他市実績	相談者/相談支援件数	相談者/相談件数	アウトリーチ相談件数/訪問・同行件数				
	60人/1,303件	71人/576件	216件/70件				

比較事項	ひきこもり居場所利用実績(令和4年度実績)						
団体名	鎌倉市	大和市	座間市				
他市実績	利用実人数/利用延べ人数/実施頻度	延べ利用人数/実施頻度	新規登録者/延べ利用人数/実施頻度				
	12人/13人/19回	76名/10回	33人/532人/平日				

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	同様の事業を行っている他市と比較し、本市の相談者数や居場所利用者数の実績が妥当なものであると考える一方で、実態調査の結果からは潜在的な対象者が見込まれることから、他市の取組みを参考にして今後の支援体制の拡充を図っていきたい。
----------------------	--